



青島の風

青島日本人学校だより
平成 30 年 12 月 3 日
校 長 金 森 孝 子

加速化する情報化社会に生きる子どもたち

「楽しい。」「もう一回やっていい?」11月27日5校時、小学部4年の教室では、子どもたち全員が、タブレットを手に、都道府県クイズに取り組んでいます。日本地図に47都道府県パズルを当てはめたり、示されたところの県名を答えたりするアプリを活用し、一人一人が自分の力を確かめながらクイズを進めています。子どもたちは、集中して取り組むことで、覚えた都道府県名や位置が増えていくのを実感しているようです。今回、この授業にタブレットを活用したのは、小学4年で、47都道府県の名称と位置を身に付け、活用できるようにすることが目標とされているからです。何とか、楽しみながら、そして、効果的に身に付けることができないか、ということで、今回、初めて全員に一台ずつタブレットを渡し、アプリを用いて授業を展開することになったのです。

青島日本人学校では、ここ数年、計画的にタブレット購入を進めてきました。そして、今年度、1クラス全員が同時にタブレットを活用して授業ができるように15台揃えました。手軽に持って移動できる、容易に写真撮影や録画ができる利点を生かして、これまでも、体育や図工・美術、生活科や総合的な学習で活用してきましたが、今回15台揃ったことと、教室にWi-Fiの環境を整えたことで、活用の機会、幅がぐっと増えました。今後、学校として、効果的な活用についての授業研究・研修を進めること、情報モラル、情報リテラシー、情報の選択、信用性の検証など、情報活用能力育成についての指導を系統的に行うことなどを通して、積極的に情報教育を推進していかなければなりません。

生活が至る所で情報化し、産業が情報化し、進歩の速度がさらに加速化する時代を生きていく子どもたちが、その基盤となる力を身に付けるためには、義務教育の段階において情報について学ぶことが不可欠です。そのため、学校が、情報化社会から乖離している場であってはならないと思います。タブレットの他に、パソコン操作も、今後、大学や仕事する段階で必ず必要になります。2020年からは小学校で「プログラミング教育」が導入されます。文字入力を始めとする初歩的なスキルの習得、コンピューターに指示して捜査対象を動かす体験なども、カリキュラムの中に位置づけられます。

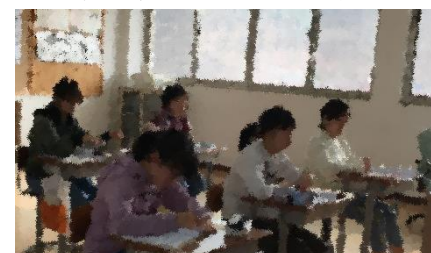
情報端末を活用し、ネットワークに繋がっていくことは、自分の世界を広げ生活を豊かにする反面、多くの危険性もはらんでいます。リスクへの理解、対応についても同時に学んでいくことが、自分を守るため、また他者を傷つけないために必要になります。これらの学習を避けて通ることはできません。保護者の方々と連携して、今、子どもたちに必要な情報教育について共に考えていきたいと思っています。



本校の中国語学習

本校の中国語学習は、すべての学年で中国語専任講師と教員によるT・Tでの授業を実施し、発達段階や個々の目標に合わせた学習を行っています。小学部低学年は、生活に身近な事柄についての表現などを、ゲームを取り入れながら学んでいます。中学部は、初級・中級コースに分かれ、個々の習熟度に合わせて、ピンインや文法などについて教材を活用しながら学んでいます。今年度は新たに小学部中学年・高学年でも、状況に応じて初級・中級に分かれ学習しています。

小学部高学年の中級クラスでは、中国の詩や物語をもとにして、毎時間のテーマに合わせた作文に挑戦しています。例えば、「大还是小」(自分が大きく感じる時、小さく感じる時を表す詩)をもとにして詩を作ろう、という学習では、「忙还是闲」「漂亮还是丑」など、それぞれのセンスがにじみ出る個性的な詩が出来上がりました。また、完成した詩をお互い読み合うことで、友達の面白い表現や美しい発音に刺激を受け、次の学習への意欲につながっています。自分の考えを表現するために、辞書を片手に、時には友達と相談しながら中国語の表現力を培っています。



中国語担当 新屋 朝美



小学部高学年 それぞれの作文を発表

中学部 中級 比較をふくむ表現の学習

学校での中国語学習が、児童生徒がそれぞれの生活経験に応じて、中国語をはじめとする中国ならではの文化に、主体的に関わっていくきっかけになることを願っています。

部活について

中学校部活動 担当 小谷 勇人

「あなたの中学校3年間の一番の思い出は何ですか？」卒業期を迎えた生徒に問いかけると、多くの生徒から返ってくる答えが「部活動」という答えです。昨今、部活動を取り巻く情勢は大きく変わってきてはいますが、達成感や異年齢集団との関わりという点では部活動の持つ役割は大きいものです。しかし、何と言ってもここは中国、異国の地であるので部活動の醍醐味である練習試合や大会・演奏会に簡単に参加できる訳ではありません。それでも同じ競技を練習する、それも同年代人との交流を通して様々な思いに至ってもらいたいと考えていました。

そこで、今年度「青島六十五中との卓球交流」を企画し、実現することになりました。当日は様々な企画もあり、卓球に割ける時間は少なくなっていました。それでも女子の団体戦、男子の団体戦を行うことができました。今まで練習してきた成果を発揮できたと答えた生徒やもっと時間が欲しかったと答えた生徒など反応は様々でしたが、紛れもなく日本の中でイメージできる「部活動」の姿が現れていました。

現在、前半の卓球部としての活動を終えて、後半のバドミントン部としての活動が始まりました。3年生からではなく、2年生の中から部長を選出してメンバーをまとめてもらいます。授業とはまた違う、人をまとめていくことの大変さを味わう経験をすることになります。温かく成長を見守っていきたいと考えています。今後ご理解ご支援をよろしく願います。



教室の窓

小学部3年担任 鹿野誠一郎

2学期が間もなく終わろうとしている今、4月のわんぱく3年生の顔が、たくましい3年生の顔に変わってきました。様々な行事や体験を通して大きく成長したと言えるでしょう。

3年生らしさがでた行事と言えば、3年生がリーダーシップを発揮した農業体験学習です。農業体験学習での一番の収穫、それは、3年生のリーダーとしての成長ぶりを見ることができたことです。出発式で各グループの先頭と最後尾に凛々しく立って、グループを整列させたり、司会進行を自分たちの力で進めたりしてくれました。また、バスの中や降りてからの整列、たくさんのビニルハウスの見学時の並ばせ方など、全員が大活躍でした。わずか半年の間に、一人一人が友達同士と根を広げ、お互いのいいところをたくさん吸収して、心の葉っぱを大きくひろげ、下級生の面倒も見ながら、ぐんぐん成長してきていることに感心させられました。まるでお芋さんの苗植えから収穫までの成長と重なるようで、とても嬉しく頼もしくまぶしく感じました。これからのさらなる成長が楽しみです。

さらに、3年生の底力を見せてくれたのが、学習発表会の「ホタルの引っ越し」の発表でした。「動植物を大切に！」「川をきれいに！」を全校にアピールしました。話し方・表現の仕方など、どうしたらみんなに分かってもらえるかなど何度も何度も話し合い、練習してきました。この結果、他学年からそして親から「良かったよ」の言葉をもらった子どもたちは、納得できる発表ができたことに満足することができました。

